

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』（通信教育部ホームページ）にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 9～11
- ・演習・実習科目関連締め切り等 社福→p. 23～26 精保→p. 27～28

2026年4月以降の変更・留意点

●受講許可証について

2027年度から「スクーリング受講許可証」はポータルサイトのみで通知します。準備期間として2026年度夏期Ⅱスクーリングより「スクーリング受講許可証」は郵送とポータルサイトのお知らせ画面（カテゴリ別お知らせ）の両方で通知します。

8 / 11(火)～14(金)の夏期事務室対応について

- ・事務室休業日：8 / 11(火)～14(金)
 - ・電話対応休止日：8 / 11(火)～14(金)
 - ・メールへの返信、証明書・学割の発行：8 / 11(火)～14(金)に頂戴したメールやお申込みへの対応は8 / 15(土)以降になる場合があります。
- ※ 8 / 15・16スクーリングの直前での欠席連絡はメールまたは8 / 15(土)午前9時以降に電話にてお願いします。また、オンデマンド9期（試験提出締切：8 / 14）に関する急を要する質問等はメールにてお問い合わせください。

※詳細は本冊子p. 44をご参照ください。

【重要・再掲】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』 p. 18他で既報の通り、『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2025年3月）をもって冊子版（印刷物）での配付を終了いたしました。各電子版（PDF）を通信教育部ホームページにて閲覧してください。

【重要・再掲】2025年度以降の各種申し込みについて

『With』冊子版の廃止に伴い、科目修了試験、会場スクーリング、各種演習・実習指導科目のお申し込みはWeb上での受付となります。

科目修了試験・会場スクーリングはポータルサイトでのお申込みとなります。

各種演習・実習指導科目につきましては、個別のご案内となります。具体的な方法については『With』各号やポータルサイト等でお知らせいたしますので、ご確認の程お願いいたします。

【再掲】幼保特例講座の延長に伴う対応について

令和6年6月に本特例制度にあたり2030年度までの延長が通知されました。これに伴い、本学における「幼保特例講座」を延長して開講させていただきます。

なお、2030年度に達する前に本学における幼保特例講座を終了する可能性もございますので、受講中の皆さまにおかれましては、お早目の単位修得を行うようお願いいたします。

李白にみる学びとは

教員 MESSAGE

教授 渡部 純夫

李白という人物について

唐代の中国で、「詩仙」と称された天才浪漫詩人こと李白は、豪放磊落^{ごうほうらいらく}の作風で一世を風靡し、浪漫主義的な詩を多く残している。月や酒、自然をこよなく愛した人生を送った詩人である。日本でいえば種田山頭火の生き方にどこか共通性を見出すのは私だけであろうか。

李白は生涯で約1,000首に及ぶ作品を残しているのだが、その中で特に私が好きな詩が、「将進酒^{しょうしんしゅ}」である。字数の関係で全文を載せることができないのが残念であるのだが、一部を抜粋してみる。

君不見黄河之水天上来
奔流到海不復回
君不見高堂明鏡悲白髮
朝如青絲暮成雪
人生得意須盡歡
莫使金尊空對月
天生我材必有用
(以下省略)

この内容を私自身の考えを入れながら、簡単に解釈してみようとするば、中国の大自然の黄河は天からの水を集め、それらは海に流れ込み再び戻ることはない。自然の営みの中で人々は老いていく。自然の営みの壮大さに比べ、人間のなんと卑小なことであろうか。人生はまたたく間に過ぎてゆくのであるか

ら、やれる時にはやらなくてどうするのか。天が与えた才能を花開かせないでどうするのか、ということになるうか。

学習することの時期とその意味について

「将進酒」の一般的な意味としては、酒を愛する李白のおおらかで豪快な生き方が表現されていると考えられるのであるが、通信の受講者に李白と同じように酒を楽しめと勧めるわけにはいかないであろう。むしろ、この詩の中で詠まれている「人生得意須尽歡」と「天生我材必有用」の二つの文節が重要なのである。

まず、「人生^{すべか}を^{かん}須らく飲を尽くすべく」であるが、人生が自分の意に適うように楽しく感じられるときには、必ずその喜びや楽しみを謳歌することに徹するべきである、と考えることが出来るであろうか。通信で学んでおられる皆さんは、まさしく人生の一時期を、通信での学習のために、時間と労力を費やし、今まで知らなかった沢山の事を知り、理解することで人生を豊かにする楽しみを味わっていると考えることが出来るであろう。学ぶ事を楽しめているかどうか。通信で学ぼうと決断したのは、人生の意味や意義を、学問を通して取り入れたいと感じたからに他ならないであろう。

ユング心理学の重要な概念として、「コンステレーション (Constellation)」という言葉と、「シンクロニシティ (Synchronicity)」という言葉がある。コンステレーションの意味は、元々は「星座」を意味し、そこから「星たちが集まることで星座を構成するように、複数の要素が集まってある一つのまとまり・配置 (布置) を作っている状態」を指すようになったとされる。心理学では無意識における関連のある心理的要素が、一定の配置を持ちながら現れてくる状態を指す。このように、コンステレーションは単なる集合ではなく、意味を持って配置された関連性の高いものと定義されよう。つまり、通信で学ばれている皆さんが東北福祉大学の通信教育を選ばれたのには、意味があるということであり、何らかの無意識的關係性で東北福祉大学の通信教育とつながったと

いうことになる。この意味を追い求めていくことで、深い無意識の世界というご自分の精神世界を垣間見ることになることであろう。そのような深いつながりの上から、自分の学習を考えたなら、この瞬間瞬間を決しておるそこにはできないと思われる。レポートを書き上げるまでの労力は、簡単なことでも楽なことでもないであろう。しかし、通信との出会いや福祉大学との出会いというものの意味を振り返ってみてほしい。出会うべくして出会う大きなコンステレーションに導かれながらの今なのである。学習の時期に関しても、なぜ今でなければならなかったのかを考えてみてほしい。ある予備校講師が物事を行う最適なタイミングとして「まさに今」であることを強調し2013年ころに大流行させた「今でしょ!」とリンクさせて考えてみると、皆さんにとって学ぶべき時期は、「今でしかない」ということになるであろう。

次に、シンクロニシティについて見てみよう。シンクロニシティ（共時性）は、ユングが「意味のある偶然の一致」を提唱するために掲げた概念であり、心の中の内的世界とリアルな現実の世界である外的世界が、因果関係が見いだされないのに類似性や近接性をもって一致する現象をさしている。先ほど触れたように、数ある通信教育の中からなぜ福祉大を選んだのかには意味があるということである。たまたまパンフレットを見てとか、何気なく目に留まったとか、外的世界を中心にしていけばそれなりの理由を見出すことは可能であろう。しかし、内的世界がなぜ福祉大を選ばせたのかについては、説明することは極めて難しいことであろう。そこで何が起きているのかが皆目見当がつかないまま、気がついて見れば福祉大の通信に入学していたということであろう。ここに生き方の妙があり面白さがあるのである。人生は意識レベルの外的世界だけでコントロールされているわけではない。むしろ無意識の内的世界の働きを借りながら作られているということに思いを馳せるとき、人生は豊かになり、苦しいと思えることにも喜びやうれしさを見出すことができるようになるのである。

学問という場において学ぶことの意味

与えられたものを覚えることで、記憶できたことの満足は得られるかもしれない。しかし、そこでは外的世界と内的世界の融合の元、心を震わすような深い感動を覚える体験や感覚を経験することは難しいのではなからうか。わかることが意味を持ち、さらに自分の人間性を開拓させ、そして更なる高みの世界を見せてくれることになる。これを味わわせてくれるのが、単純な言葉に集約するとすれば、学問をするということである。学問は主体的な体験である。そのため、李白が言うように「人生意を須らく^{すべか}飲^{かん}を尽くすべく」の人生が自分の意に適うように楽しく感じられたときには、必ずその喜びや楽しみを謳歌することに徹するべきであるということになるのである。この時期を見逃さないのが肝心であり、常日頃からの鍛錬が必要ということになる。

最後にもう一つ、李白の「天我が材を生ずる必ず用有り」について説明を加えて終えることにする。人間がこの世に生を受け、成長していくということは、天が自分に才能を与えたということであり、これを用いる時が必ず来るということである。学ぶということはその日、その時に備えて準備をしておくことと考えられる。この準備が行われていなければ、その時が来ても才能を生かすことはできないであろう。一見、根気を求められ、なかなか成果が出ないように思われる学問をし続けるのには、このような意味があるものと考えることができる。その時が来た時に、力を発揮できないようでは困るのである。自分の人生を豊かなものにしていく準備は積み重ねによる努力にひとえにゆだねられているように思われる。その時が来た時、大いなる力を発揮してくれることを期待したい。

引用文献

李白「李白詩選」松浦友久編訳、岩波文庫、1997

